

トーキョーワンダーサイト レジデンス成果発表展
トーキョー・ストーリー2015

【第1期】 2015年4月18日(土)～5月31日(日)

【第2期】 2015年6月13日(土)～7月26日(日)

トーキョーワンダーサイト本郷

— 世界の街を舞台に滞在制作を行った、国内外のクリエイター総勢8組による成果発表展

トーキョーワンダーサイト(TWS)は、東京における世界中のクリエイターが集まる国際的なクリエイティブ・プラットフォームとして、また東京から海外へ新しい創造力を発信する場として、様々な文化事業を展開しています。

2006年より開始したレジデンス・プログラム「クリエイター・イン・レジデンス」では、東京や海外の派遣先を舞台に、多様なジャンルや国籍のクリエイターたちが、実験的な創作活動を行ってきました。本展では、TWSの2014年度レジデンス・プログラムに参加した国内外のクリエイターたちの中から、総勢8組による滞在制作の成果を2期にわたり紹介します。

展覧会概要

展覧会名:	トーキョー・ストーリー2015 (英語タイトル: Tokyo Story 2015)
会期:	【第1期】 2015年4月18日(土)～5月31日(日) 【第2期】 2015年6月13日(土)～7月26日(日)
会場:	トーキョーワンダーサイト本郷 (東京都文京区本郷2-4-16)
開館時間:	11:00～19:00 (最終入場は30分前まで)
休館日:	月曜日 (ただし5月4日、7月20日は開館)、5月7日、7月21日
入場料:	無料
主催:	公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト
クリエイター:	【第1期】 伊藤久也、久野 梓、鈴木紗也香、安野太郎 【第2期】 川久保ジョイ、下平千夏、西原 尚、モハメド・アラム
提携都市/機関:	アトリエ・モンディアル(スイス・バーゼル)、ベルリン市/クンストラウム・クロイツベルク/ベタニエン(ドイツ・ベルリン)、ロンドン芸術大学(イギリス・ロンドン)、韓国国立現代美術館/MMCA レジデンシー・コヤン(韓国・ソウル)、アーツ・イン・レジデンス台北/トレジャーヒル・アーティスト・ヴィレッジ(台湾・台北)



ウェブサイト: <http://www.tokyo-ws.org>

<お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

公益財団法人東京都歴史文化財団トーキョーワンダーサイト 広報担当: 市川

TEL: 03-5602-9881 E-mail: press@tokyo-ws.org

展覧会について

2014年度のTWSレジデンス・プログラムでは、世界各国の都市のアーティスト・イン・レジデンス施設と連携した「二国間交流事業プログラム」を中心とした事業を実施しました。このプログラムでは、TWSの公募を経て選出された日本人クリエイターが各都市へ派遣され、同様に各国の提携機関から選出されたクリエイターがTWSに招聘され滞在制作を行います。「トーキョー・ストーリー2015」では、この「二国間交流事業プログラム」でバーゼル、ベルリン、ロンドン、ソウル、台北の各都市で滞在制作を行った7名の日本人クリエイターの作品を紹介いたします。各クリエイターは、滞在先での活動を改めて振り返り、言葉や文化が異なる都市で自らが吸収してきた経験を咀嚼し、東京という街で発展させることを狙いとしています。

また、2006年よりTWS青山:クリエイター・イン・レジデンスとして稼働していたレジデンス施設は墨田区へ移転し、2014年秋より「TWSレジデンス」として運営を開始しました。新レジデンス施設では初となる「海外クリエイター招聘プログラム」で招かれ、東京で滞在制作を行ったエジプト人アーティストの作品も展示予定です。

オープニング・トーク

【第1期】4月18日(土)15:00~17:00

参加クリエイター:伊藤久也、久野 梓、鈴木紗也香、安野太郎

【第2期】6月13日(土)15:00~17:00

参加クリエイター:川久保ジョイ、下平千夏、西原 尚、モハメド・アラム

※参加クリエイターは変更となる場合がございます。予めご了承ください。

会場: トーキョーワンダーサイト本郷

クリエイタープロフィール

【第1期】

■伊藤久也 | Hisaya Ito (二国間交流事業プログラム<ソウル>、2014年10月~12月滞在)

1987年生まれ。2014年に東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻を修了。弟の死をきっかけに人の存在や認識を問いかけた彫刻作品や、祖母の洋裁の技術をテーマに作成した映像インスタレーションなど、自身の身近な関係から制作を進めている。近年の主な展覧会に「未見の星座 つながり/発見のプラクティス」(東京都現代美術館、2015)、「藤沢今昔まちなかアートめぐり 2014」(藤沢市、神奈川、2014)、「小豆島アーティストインレジデンス成果作品展」(香川、2014)、「江ノ島七変化-7人のアーティストが奏でる浮世絵物語-」(藤沢市民ギャラリー、神奈川、2014)など。

■久野 梓 | Azusa Kuno (二国間交流事業プログラム<ベルリン(在住)>、2014年7月~10月滞在)

1980年生まれ。2013年にベルリン芸術大学マイスター課程を修了。身体、人、社会の相互関係への関心を起点とし、近年は特に、多岐にわたる個人情報内包する髪の毛を媒体として使用した立体作品を制作している。近年の主な展覧会に「hortus semper virens」(ハウス・アム・リュッツォープラッツ、ベルリン、2014)、「Wearable Artshow」(KNIPSU、ベルゲン、2014)、「Infinity Jetzt」(クロイツベルク・パピリオン、ベルリン、2014)など。「ベルンハート・ハイリゲ財団奨学金」(ベルリン、2014)受賞。

■鈴木紗也香 | Sayaka Suzuki (二国間交流事業プログラム<バーゼル>、2014年5月~7月滞在)

1988年生まれ。2014年に多摩美術大学大学院を修了。自己と外の関係性を、屋内・屋外や、有機・無機など相反するものに置き換え、窓や鏡を介して入れ子状になる世界を描く。近年の主な展覧会に「色彩は透過され空間に還元される」(Maki Fine Arts、東京、2013)、「風景の気配」(新宿眼科画廊、東京、2012)、「another scenery -半透明の薄い膜と耳障りな沈黙達-」(トーキョーワンダーサイト本郷、2011)など。主な受賞歴に「VOCA 展」VOCA 賞(上野の森美術館、東京、2013)、「シエル美術賞」島敦彦審査員賞(代官山ヒルサイドテラス、東京、2011)など。

■安野太郎 | Taro Yasuno (二国間交流事業プログラム<ベルリン>、2015年2月~3月滞在)

1979年生まれ。2004年に情報科学芸術大学院大学を修了。自ら提唱する非一人間指向の、自作のロボットによる自動演奏音楽『ゾンビ音楽』の制作、発表を中心とした活動を行う。近年の主な活動に「死の舞踏」(京都芸術センター、2014)「QUARTET OF THE LIVINGDEAD」(トーキョーワンダーサイト渋谷、2013)、「DUET OF THE LIVINGDEAD」(SNAC、東京、2012)など。「第7回JFC作曲賞コンクール」自作自演による作曲賞(日本作曲家協議会、2014)受賞、第12回及び第17回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品選出(国立新美術館、東京、2008、2013)。

【第2期】**■川久保ジョイ | Yoi Kawakubo (二国間交流事業プログラム<ロンドン>、2014年9月~10月滞在)**

1979年生まれ。2003年に筑波大学人間学部を卒業。形而上学性を作品の中心的なテーマとして制作活動を行う。風景の普遍性や写真行為の形而上学性を追求した平面作品、偶然性やメタ認知を主題・媒体としたインスタレーション、サウンド作品を制作。2012年以降は原子力の問題や東北の被災地に関連した活動も行っている。近年の主な展覧会に「Tokyo Story 2014」(トーキョーワンダーサイト渋谷、2014)、「内臓感覚」(金沢 21世紀美術館、石川、2013)、「みえない」(西武美術画廊オルタナティブスペース、東京、2013)、「The Colossus Drive and the Black Sun」(hpgrpGallery Tokyo、東京、2012)など。

■西原 尚 | Nao Nishihara (二国間交流事業プログラム<ベルリン>、2014年11月~2015年1月滞在)

1976年生まれ。2011年に東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻を修了。聞いたことのない音を鳴らすことで、人が生来持っている聞く力と好奇心の再認識を促すことをテーマに、展示やパフォーマンスなどを中心に活動している。近年の主な活動に、個展「耳のみち Reise der Ohren」(ベタニエン、ベルリン、2015)、「音と物」(アユミギャラリー、東京、2014)、イベント「2014 野毛ジャズ de 盆踊り」(野毛本通り、神奈川、2014)、パフォーマンス「After History」(共演:藤田龍平、NADiff a/p/a/r/t、東京、2014)の他、「清水寛二・音盗りオドリ『カラダハコレカラダ』」(演出:田中泯、plan-B、東京、2014)の音楽及び音響担当。「トーキョー・エクスペリメンタル・フェスティバル Vol.8」サウンド・インスタレーション部門 特別賞(トーキョーワンダーサイト本郷、2014)受賞。

■下平千夏 | Chinatsu Shimodaira (二国間交流事業プログラム<台北>、2014年9月~12月滞在)

1983年生まれ。2010年に東京藝術大学大学院美術研究科修士課程先端芸術表現を修了。日常生活の中で、無意識に支配されている行動や認識など、自身をとりまく「境界」について考察し、サイトスペシフィックなインスタレーション作品をメインに制作、発表している。近年の主な展覧会に「信州新世代のアーティスト展 NEXT 2013」(長野県伊那文化会館、2014)、「六甲ミーツ・アート芸術散歩」(六甲山、兵庫、2013)、「Tokyo Midtown Award 2012」(東京ミッドタウン、2012)、「implosion point」(INAX ギャラリー2、東京、2010)など。

■モハメド・アラム | Mohamed Allam (海外クリエイター招聘プログラム、2015年1月~3月滞在)

1984年生まれ。2008年にヘルワン大学芸術教育学部を卒業。カイロ在住。社会や政治など自身を取り巻く環境を映像やパフォーマンスといった様々なメディアを用いて表現している。自身の作品に内在する皮肉さの根源に焦点をあてることにより、作品の文脈や枠組みを構成する。これらの要素を自身の文化的本質と結びつけ、より広大なネットワークに関連付けることを試みている。近年の主な展覧会に「My Nineties」(The Townhouse Gallery、カイロ、2013)、「Yao Mong in Tunis」(Dream City Festival、チュニス、チュニア共和国、2012)など。アーティスト活動の他に、アートマネジメントも行い、カイロで活動するアーティスト・イニシアティブ「Medrar for Contemporary Art」を設立。

広報用画像 ※この他にも広報用画像を用意しております。詳しくは広報担当までお問い合わせください。

【第1期】



伊藤久也
《隣のおふくろの味》2014
映像、写真、立体



久野 梓
《Spaces of Hair》2010-
インスタレーション (参考画像)



鈴木紗也香
《バラの門》2014
油彩、アクリル、布、キャンバス

【第2期】



安野太郎
ベルリン滞在制作中の様子 2015



川久保ジョイ
《そばばかりみていた(I Know)》2014
スチル



下平千夏
《smell the frontier》2014
インスタレーション、水系、釘、柱材
(参考画像)



西原 尚
《耳のみち Reise der Ohren》2015
ボンネット、アルミニウム棒、スーパーボール、
モーター、ベルト、木材、金物



モハメド・アラム
《Let's talk about the secrets》2015(制作中)
ビデオインスタレーション